

14:1 愚か者は心の中で、「神はいない」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行っている。善を行う者はいない。 14:2 【主】は天から人の子らを見おろして、神を尋ね求める、悟りのある者がいるかどうかをご覧になった。 14:3 彼らはみな、離れて行き、だれもかれも腐り果てている。善を行う者はいない。ひとりもない。 14:4 不法を行う者らはだれも知らないのか。彼らはパンを食らうように、わたしの民を食らい、【主】を呼び求めようとはしない。 14:5 見よ。彼らが、いかに恐れたかを。神は、正しい者の一族とともにおられるからだ。 14:6 おまえたちは、悩む者のはかりごとをはずかしめようとするだろう。しかし、【主】が彼の避け所である。 14:7 ああ、イスラエルの救いがシオンから来るように。【主】が御民の繁栄を元どおりにされるとき、ヤコブは楽しみ。イスラエルは喜べ。

はじめに

昔、英国である路傍伝道者がたくさんの人々を周囲に集めました。そして、聖書の中で「神はいない」と書いてある箇所を発見したと言いました。

集まった人々は、伝道者が聖書を開いて「神はいない」と書いてある箇所を見せてくれるのを今か今かと待っていました。

集まった人数がピークに達したと思われるとき、伝道者は聖書を開き、詩篇 14 : 1 を読みました。「愚か者は心の中で、『神はいない』と言っている。」

その後、伝道者は集まった人々に向かって福音を伝えようとしてしました。多くの人はその場を去りましたが、そこに残って彼の話を聞いた人もいました。

もし今あなたが心の中で、聖書の教える神はいないと言ったら、聖書の神は今日、「あなたは愚か者だ」と答えるでしょう。

「愚か者」の意味の英単語「fool」は、ラテン語の「ふいご」を指す単語が語源です。

英国では昔、炭火が使われていました。それで、消えそうになった火に空気を送るためにふいごを使いました。

つまり、愚か者とは、空気だけで空っぽの人を指すわけです。

ヘブル語には、愚か者を指す単語が 3 種類ありました。

まず、鈍く頭の悪い人、次に、道理をわきまえないゆがんだ人、そして、頑固な動物のような人です。

神はいないと思う人は、必ずしも知性や知能に問題のある人ではありません。

むしろ、頭は良くても、霊的な知恵や洞察に欠けた人です。

聖書は愚か者を描くうえで、知性や頭脳に焦点をあててはいません。聖なる神にいずれ申し開きをしなければならぬモラル上の問題に焦点をあてます。

詩篇 14 篇は、愚か者の道を描き出します。

今日は、詩篇の著者が指摘する愚か者の特徴を 3 つ挙げます。

1. 愚か者は、創造主であり所有者である神を否定する。(1 節前半)

創世記 1-2 章は、非常に重要な聖書箇所です。

そこには、創世の歴史と人類の起源が記されています。

創世記 1 : 1

1:1 初めに、神が天と地を創造した。

創世記 1 : 26-28

1:26 神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。」 1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と

女とに彼らを創造された。1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」

聖書はもっとも正確な歴史文書であると証明されていますが、多くの現代人は、創造主であり所有者である神の存在を否定します。

なぜでしょう。

「無神論者」つまり神の存在を信じない理由を人はあれこれ挙げますが、そのおもな理由は正直なところ次のようなものでしょう。

「自分の人生を誰にもとやかく言われたくない。自分の道を進み、生きたいように生きるのだ。」

けれども、無神論者が神の存在を否定する根拠は、クリスチャンが創造主なる神を主張する根拠に比べて、非常に乏しいものです。

ここで手短かに、神の存在を主張する3つの根拠をご紹介します。私の言う神とは、私たちの創造主であり所有者である聖書の神です。

a) 聖書の神の存在は世界中で信じられている。

モーセが聖書の最初の五書を記す前から、世の中の人々は最高権威者なる神の存在を信じていました。

そのような確信の出どころはどこでしょう。

それは、理屈や伝統などの外的要素ではありません。聖書でさえありません。

あらゆる証拠が、神の存在に対する確信は内から湧き出るものだと結論付けます。

それは、私たちの心の中に元から備わっているものなのです。

聖書は、神が私たちの心に永遠という概念を与えられたと語ります。（伝道者の書 3 : 11）

聖書は、真理を抑圧する人たちについて教えます。

無神論者は、人の心に元から備わっている真理を抑圧することに全人生を費やします。

聖書は、神が私たちをご自身のかたちに似せて造られたと明言します。そうなされたとき、神ご自身のご性質の一部が私たち人類のうちに刻まれました。

ですから、私たちの心の中には、私たちを造られた創造主なる神への認識があるのです。

世界中の多くの人々の心の中に、人生の意義や目的を探し求める願望があります。

そのような願望はどこからやってくるのでしょうか。

それは、神が私たちのうちに刻まれたものからやってきます。

b) 私たちの生きる世界には、それぞれ特有の性質を持つ動物や鳥、植物があり、これは、超設計者の存在を指し示す。

ここで、3つの鳥を例に挙げましょう。

キョクアジサシ

北極圏と南極圏を行き来する渡り鳥です。

毎年、1万5,000キロメートルを移動し、一生涯の平均移動距離は100万キロメートルといわれます。

この小さな鳥には、多くが解明されていない方位決定システムが備わっています。

この鳥を造ったお方は、人間よりも偉大な存在に違いありません。

インドガン

この鳥は、ヒマラヤ山脈を越える、世界一標高の高い移動経路を持つ渡り鳥です。海拔0メートルから海拔9,000メートルまで高く飛びます。

そのような標高の高い場所では酸素濃度が低く、人間など多くの動物は生きることができません。

この鳥は、死なないだけでなく、このような標高の高い場所で長距離を飛行します。

そのような不思議な鳥を造ったのは誰でしょう。これが偶然であるはずがありません。

ムナグロ

この渡り鳥は、アラスカからハワイへと渡ります。その旅路は3,000キロメートルに及びます。ハワイ島は、広大な太平洋では小さな点でしかありませんが、この鳥はサテライトナビなどの道具を一切使わずに毎年正確にたどり着きます。驚くべき能力を持つこの鳥を、設計して造ったのは誰でしょう。

聖書は、聖書の神が鳥を造ったと語ります。（創世記 1：20）

このように、鳥、動物、昆虫、植物など自然界をとおして独特の設計が無数に見られます。

人間をはるかに超える知性と力の持ち主がいなければ、これらの生物のユニークで不思議な設計や能力は存在し得ません。

神は人にもご自身の知性の一端を与えてくださいましたが、そのすべてを与えられたものではありません。神は、設計の巨匠です。神は、無からすばらしいものを生み出すことがおできになります。

人が何かを造るには、神がすでに造られたものを使わなければなりません。

人は、無から何かを造りだすことはできません。

c) 人の設計は、超知的設計者を指し示す。

人間は、知性と体と霊を備えた独特の造りになっています。

人間の独特の設計は、創造主を指し示す大きな根拠となります。

人は動物と大きく異なります。これが、人間が類人猿の子孫ではなく、サルなどと同時に造られたがもともと違ったものとして造られたことを証明します。

今日は時間の関係で、その根拠のうち、ふたつのみ例として挙げます。

人間の足の親指

人間の足の親指は、他の指とくっついています。

これは、歩いたり走ったりするのに大切です。

前に進むときに最後に踏ん張るのは足の親指です。

体勢を崩さずに前進するためには、足の親指が丈夫でなければなりません。

類人猿の足の親指は、柔軟な手の親指のようで、木の枝をつかむのに便利な設計です。

類人猿が二足歩行しようとしても、足の親指で踏ん張ることはできません。

人間の膝関節

人間の膝関節は、適切に機能するためには入り組んだ4つの部分が存在し同時に動かなければなりません。

その4つの部分のひとつでも損傷すると、元通りには動きません。

人間の膝関節は、直立歩行ができるように、まっすぐに伸びます。

そして、まっすぐ立った状態で固定されます。

このおかげで、筋肉を常時緊張させておくことなく立っていることができます。

これに比べ、類人猿の膝関節はまっすぐに伸ばすことはできません。だから、類人猿は常に足が曲がっているのです。

人は人工膝関節を発明しましたが、神が造られた膝とまったく同じようには機能しません。

人工膝関節では、平泳ぎはできません。

人間の膝関節を設計したお方は、人工膝関節の第一人者と言われる科学者よりも優れているわけです。

また、類人猿のためには人間とは異なる膝関節を設計されました。

このような特定の設計は、類人猿が進化して人となったという可能性がないことを意味します。それには複雑な作業が関わり、不可能です。

聖書の神は、人間の膝も類人猿の膝も設計されたすばらしいお方です。

ですから、これらの根拠を無視して創造主であり所有者なるお方を否定するのは愚か者です。

2. 愚か者の心は腐っていて、その行いは悪い。(1-4 節)

詩篇の著者は、1-3 節で愚か者を痛烈に批判します。

そして、その愚かな人たちが神を求めはしないかと、神が天からご覧になると語ります。

けれども、愚か者の中に、神の目に良しとされる人はいないことがわかります。

この問題の原因は、人が自らの罪の性質を認めないことにあります。

人は性善説を好み、人の心や思いが世間に汚されるだけだと思いたいのです。

生まれたばかりの赤ちゃんが罪を持って生まれたということを、ほとんどの人は認めません。

そういう人たちに私は言います。「誰が悪いことをするように子どもに教えるのですか。お母さんの言うことを聞かないようにと誰が教えるのでしょうか。」

母親自身がそんなことを教えるはずはありません。子どもの性質そのものが、言うことを聞かないというかたちで表現されるだけです。

子どもに正しいことをしなさいと教えなければなりません、悪いことをしなさいと教えなくてもそうします。それは、罪の性質から出た悪い行いだからです。

こういう愚か者の問題は、通常の知性の欠如が原因ではありません。むしろ、わざと無知でいることが原因です。

では、わざと無知でいることについて語る聖書箇所をいくつか読みましょう。

ペテロ第二 3 : 1-7

3:1 愛する人たち。いま私がこの第二の手紙をあなたがたに書き送るのは、これらの手紙により、記憶を呼びさまさせて、あなたがたの純真な心を奮い立たせるためなのです。

3:2 それは、聖なる預言者たちによって前もって語られたみことばと、あなたがたの使徒たちが語った、主であり救い主である方の命令とを思い起こさせるためなのです。

3:3 まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、

3:4 次のように言うでしょう。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか。父祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。」

3:5 こう言い張る彼らは、次のことを見落としています。すなわち、天は古い昔からあり、地は神のことばによって水から出て、水によって成ったのであって、

3:6 当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。

3:7 しかし、今の天と地は、同じみことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。

ローマ 1 : 18-28

1:18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。 **1:19** それゆえ、神について知られることは、彼らに明らかです。それは神が明らかにされたのです。 **1:20** 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。 **1:21** それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。 **1:22** 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、 **1:23** 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。 **1:24** それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。 **1:25** それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。 **1:26** こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、 **1:27** 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうしで情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行うようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているの

です。1:28 また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。

創造主なる神を自分の頭から完全に追い出してしまうと、私たちの内側はさらに腐っていきます。

イエス・キリストの再臨の日が近づくにつれ、人は聖書からの神のみことばに耳を貸そうとしなくなるでしょう。

この世はどんどん腐敗していきます。

けれども、元気を出してください。私たちには神のみことばがあります。真理があります。

ですから、まだ機会が与えられている間に、みことばの真理を伝えなくてはなりません。

最後に、この個所で、不法を行う者がパンを食らうように神の民を食らうとあります。

これはどういう意味でしょう。

パンのように人を食らうとは、聖書の比喩表現で、無力な人を搾取することです。

悪人は、貧しい人や無力な人から搾取します。

神の裁きが、その悪人たちにくだされます。

これが、5 節で著者の語っている彼らの恐れです。

3. 愚か者はいずれ突然の恐れに襲われる。(5 節)

いずれ、神を一生拒み続けた人を突然の恐れが襲います。

ここで著者は何を思い描いているのでしょうか。

著者は、神を拒む愚か者に下される最終的な裁きを確認しています。

アテネで「愚か者たち」に出会ったパウロは、イエス・キリストをとおして裁かれる日が来ると語りました。

使徒 17 : 22-31

17:22 そこでパウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私はあなたがたを宗教心にあつい方々だと見ております。

17:23 私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇があるのを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。

17:24 この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。

17:25 また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。

17:26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。

17:27 これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。

17:28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たちもまたその子孫である』と言ったとおりです。

17:29 そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。

17:30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。

17:31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの実証をすべての人にお与えになったのです。」

「神はいない」と言える唯一の場所がありますが、それは残念ながら地獄だけです。

ですから、生涯でもっとも賢明な選択は、自分がもともと聖書の神によって関係を築くために造られたと認めることです。

人類の起源アダムとエバが神に逆らったことで、神はご自身の被造物と離れられました。そして、その背きに対して、すべての人に死をもたらすという罰を与えられました。しかし、神は神と人との間にもともとあった関係を回復する道を与えてくださいました。神のところへ戻るその道とは唯一、神の御子イエス・キリストです。神の御子イエス・キリストは、罪と背きのために私たちが受けるべき罰を負ってくださいました。

コリント第二 5 : 21

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。

愚か者にならないで、イエス・キリストを信じ、賢い人になりましょう。